都市再生整備計画 事後評価シート 下垂木地区

令和3年3月 静岡県 掛川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名 掛川市				地区名		下垂木地區			区	面積	52.1ha	
交付期間	平成28年度~令和2年度		事後評価実施時期 令和2年度			:	交付対象事業費		1,606百万円 国費至		率 0.418				
			事業名												
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、	基幹事業	【道路】都市計画道路桜が丘通り線、都市計画道路杉谷家代線、市道神田一丁田線 【公園】ゆうゆうパーク 【地域生活基盤施設】ゆうゆうパーク												
	実施した事業	提案事業	【地域創造支援事業(河川整備事業)】普通河川一色川 【事業活用調査】事業効果活用調査												
	·		事業名					削除/追加の理由				削除/追加による	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業			-				-					-		
		提案事業	-					_					-		
	新たに追加しを事業を事業を表現しています。		-					-				-			
		提案事業 当 初						-			-				
	交付期間 の変更	平成28年度~			間の変更による事業、 、数値目標への影響						_				
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況				従前	値	目標	直	数	值	目標	1年以内			フォローアップ	
	指標1 狭あい道路解消率		単位	3.3	基準年度 H27	27.0	目標年度 R02	モニタリング	<u>評価値</u> 19.2	達成度 △	達成見 あり なし	込み (総合所 計画区域内の道路整備は 解消には至っていないため 動果が発揮されていない。	部分整備であり、課題	予定時期 R07年内	
	指標2	È性 %	14.6	H27	50.0	R02		42.5	Δ	あり なし	計画区域内の道路整備は 解消には至っていないため 効果が発揮されていない。		R07年内		
	指標3 地区の賑わい			16.3	H27	60.0	R02		21.3	Δ	ありなし	公共施設の整備により、計かけづくりを進めているもの整備が多いことや、ゆうゆう工事が完了することとなっ度以降に地元住民が中心設を活用し、具体的なにぎ必要がある。	の、道路は未だ部分 パークは令和2年度に こいる。そのため次年 こなって整備された施	R07年内	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況		指 標	単位	從前]値 基準年度	目標	値 目標年度	数 モニタリング	値 評価値	目標 達成度※1	1年以内達成見			フォローアップ 予定時期	
	その他の 数値指標1			5.0	H27	, E m 1 /2			3.4			地区内の狭あい道路を拡幅 ズなすれ違いを可能とする 事故発生件数が減少してい	し自動車等のスムー ことで、計画区域内の る。	R07年内	
	その他の 数値指標2 地区全体の安全性			7.6	H27				51.5			道路整備を行うあたって、元 歩行者への安全対策を併t り、地区全体の安全性が増	せて整備することによ	R07年内	
4)定性的な効果 発現状況	・河川の未改修区間の整備を行ったことで、計画区域内の冠水被害が激減した。 ・計画区域周辺の環境の変化や、計画区域内の居住環境が更新(商業進出、公共施設(道路、河川、公園)の整備、および道路沿線が宅地化)していることから、計画区域内の定住人口が増加した。														
5)実施過程の評価	モニタリング						初古市と	実施状況 都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後の対応方針等			
							部川丹王皇帰計画に記載した、実施できなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-			
	住民参加 プロセス 【集		実施頻度]年2~3回 実施時期]平成26年9月に発足し随時 実施結果]]計画区域内の公共施設(道路、河川、公園)の整備内容				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				·	公共施設整備を引き続き整備を行い、地区の課題を解消し、自然災害に強 いまち、安全安心に歩ける道路環境の創出を目指す。			
	持続的なま体制の体		面積約4.9ha内に商業を誘致(約2.6ha)と戸建て分譲地(60画地;約1.1ha)を計画				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				•		-		

様式2-2 地区の概要

下垂木地区(静岡県掛川市) 都市再生整備計画の成果概要 まちづくりの目標 目標を定量化する指標 従前値 日標値 評価値 狭あい道路解消率 単位:% 3.3 H27 27.0 R02 19.2 R02 【大目標】「安全・安心・快適に住み続けられる活気のあるまち 下垂木」の実現 【小目標】 ①地震や水害などの自然災害に強いまちづくりの推進 通学路の安全性 単位:% 14.6 H27 50.0 R02 42.5 R02 ②安全で安心して歩けるまちづくりの推進 ③子どもから高齢者まで多様な人が集い、賑わうまちづくりの推進 単位:% 地区の賑わい 163 H27 60.0 R02 213 R02 市道神田一丁田線 (普) 一色川 (都) 桜が丘通り線 ■街路 (都) 桜が丘通り線 ■道路 市道神田一丁田線 (都) 杉谷家代線 ゆうゆうパーク □地域創造支援事業 (普) 一色川 ■公園 ■地域生活基盤施設(地域防災施 ゆうゆうパーク 月. 例 □事業活用調査 事業効果活用調査 基套维基 提案事業 都市再生整備計画区域 ●地震や水害などの自然災害に強いまちの形成 (達成)一部既存道路の拡幅を行うことによる延焼防止や緊急車両の走行が可能となったこと、また一部未整備区間の河川改修を行ったことによる計画区域内の冠水が激減したことなど、災害に強いまちづくりが進められた。

(課題)道路は部分整備にとどまっていることから、道路機能として十分な効果が発揮されておらず、完成前に大規模災害が起こった場合、住民の避難行動や緊急車両の通行に支障を来すため、未整備区間の整備が必要である。 ●安全・安心に歩ける道路環境の創出

まちの課題の変化

の方策

(改善策を含む)

(達成)一部既存道路の拡幅を行うことで自動車のすれ違いが可能となるとともに、歩行者の安全性が増した。

(課題)道路は部分整備にとどまっていることから、道路機能として十分な効果が発揮されておらず、歩行者の安全が確保されていない箇所もあるため、未整備区間の整備が必要である。

●地区コミュニティを日常的に深める場の創出

(達成)道路や公園といった公共施設を整備することで、賑わいを生み出すきっかけづくりができた。

|(課題)計画区域内の公共施設が徐々に整備されても、それらをきっかけとしたまちづくり活動が具体となっていない**ため、地域の活動を推進する必要がある。**

■効果を持続させるために行う方策

|・河川の維持管理:河川改修が行われても、立木、ごみ等の増加により、計画流量を流すことができない、また度重なる大雨による構造物の劣化による河川決壊等を防ぐため、行政や地元が定期的に河川の維持管理を行う。 ・公共施設整備の推進:道路整備が一部未整備であるため、早期整備(拡幅等)を行う。

今後のまちづくり

・道路未整備区間の早期整備:今回の計画では道路整備が完全に行われていないことから、2期計画では、道路未整備区間の拡幅、舗装整備等を行い、道路としての機能が十分発揮できるものとする。また通学路として利用されている 道路は、歩行者の安全に考慮した整備を行う。

|・まちの賑わい創出に向けた地元活動の推進:地元住民や自治会が中心となって進めるまちづくり活動の企画提案を行い、それを実現するために行政のサポートを受け、下垂木地区に新たなにぎわいを生み出す。

・**地区内交通量増加に対する安全の確保**:計画区域に商業施設が進出したことにより、区域内の通過交通が増加することが想定されるため、速度**抑制**や安全性向上のため**の**路面**標示**の改良等を行い、交通事故発生率を抑制する。